

北海道済生会

「商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×

ソーシャルインクルージョン推進に係る実証実験」

報告書

2024 年 3 月



株式会社

北海道二十一世紀総合研究所

目次

I	事業の概要	1
1	事業目的	1
2	事業の内容	1
II	放課後児童クラブ等を補完する機能整備に向けた実証研究等支援	2
1	先進事例調査	2
1-1	商業施設を活用している事例	2
1-2	医療・福祉法人が運営する事例	4
1-3	商業施設×医療・福祉法人の事例	6
2	実証支援	7
2-1	実証内容の検討	7
2-2	モルック	8
2-3	デジタル系ものづくり	15
3	実証結果と今後の方向性	22
3-1	実証の結果	22
3-2	今後の方向性	22
III	放課後児童デイサービス等を補完する機能整備に向けた支援	24
1	職業体験特化型事業所のサービス内容や対象の拡大に向けた支援	24
2	デジタルリハビリの対象の拡大に向けた支援	24
IV	ソーシャルインクルージョンのさらなる方策の推進に向けた検討	25
1	子育て期の就労をサポートする仕組みづくりに関する調査検討	25
1-1	子育て期の女性の新たな働き方に関する先進事例調査	25
1-2	子育て期の女性の新たな働き方に関するニーズ調査	28
1-3	企業における子育て期の従業員の新たな働き方に対する意識調査	29
1-4	子育て期の就労をサポートする仕組みの検討	35
2	フードバンクや地域食堂の機能を生かしたソーシャルインクルージョンの推進方策の検討	37
2-1	フードバンクについて	37
2-2	地域食堂について	39
3	地域住民のサポート体制構築に向けた検討	40
3-1	関係団体へのヒアリング	40
3-2	地域住民のサポート体制構築に向けた課題	41
4	ウェルネス会議の開催支援	41
5	成果報告会の運営支援	42

I 事業の概要

1 事業目的

本事業は、北海道済生会を中心とする地域内外の産学官ステークホルダーによる「共創」により、地域住民にとって身近で利便性の高い地域の商業施設「ウイングベイ小樽」内に設置した「済生会ビレッジ」を拠点とし、“制度の隙間”にいるすべての「子ども」の居場所づくりや、「フードバンク」、「障がい児職業体験」と連携し整備する「地域食堂」を介したソーシャルインクルージョンの推進に向けた実証実験を行い、今後の取組方向性をとりまとめるものである。

2 事業の内容

本事業は、「放課後児童クラブ等を補完する機能整備に向けた実証研究等支援」「放課後児童デイサービス等を補完する機能整備に向けた支援」「ソーシャルインクルージョンのさらなる方策の推進に向けた検討」の大きく3つの事業を実施し、今後の取組方向性を検討する。

事業全体の流れは、下記に示す通りである。

放課後児童クラブ等を補完する機能整備に向けた実証研究等支援

- 1) 先進事例調査
- 2) 実証支援

放課後児童デイサービス等を補完する機能整備に向けた支援

- 1) 職業体験特化型事業所のサービス内容や対象の拡大に向けた支援
- 2) デジタルリハビリの対象の拡大に向けた支援

ソーシャルインクルージョンのさらなる方策の推進に向けた検討

- 1) 母親の就労をサポートする仕組みづくりに関する調査検討
- 2) フードバンクや地域食堂の機能を生かしたソーシャルインクルージョンの推進方策の検討
- 3) 地域住民のサポート体制構築に向けた検討
- 4) (仮称) ウェルネス会議の開催支援
- 5) 成果報告会の運営支援



商業施設を拠点とした子どもの居場所づくり×ソーシャルインクルージョン推進に向けた今後の取組方向性の検討

Ⅱ 放課後児童クラブ等を補完する機能整備に向けた実証研究等支援

1 先進事例調査

民間事業者が主体となり、放課後児童クラブ等を補完する機能を提供している事例調査を行い、取組内容や実施体制、運営方法、事業継続における課題等を分析・整理する。

事例選定にあたっては、商業施設を活用していることや、医療・福祉・介護事業を展開する法人が運営に関わっていること等を視点に選定した。

1-1 商業施設を活用している事例

1) ベネッセ 学童クラブ市ヶ尾(神奈川県横浜市)

設置運営事業者	株式会社ベネッセスタイルケア		
設置場所	スポーツクラブ施設内		
運営方法	民設民営、設置事業者スタッフによる運営		
取組内容	スポーツクラブ「メガロス市ヶ尾」内にある小学生を対象とした学童クラブ。自由時間のほか、施設スタッフによる学習支援、体験学習、 <u>周辺の保育園や有料老人ホーム等との交流</u> 行事等を実施。		
想定される利用シーン	平日の放課後、休日に児童が利用 営業時間：平日-放課後～21:00、学校休日-7:30～21:00		
対象	小学校1年生～6年生（利用定員 55 名）		
利用料金	入会金 20,000 円、施設維持費 10,000 円/年		
		1 年生	2 年生
	週 5 日利用	45,000 円	41,000 円
	週 3 日利用	34,500 円	30,500 円
	週 2 日利用	—	24,000 円
	週 1 日利用	—	13,000 円
想定される事業継続における課題	都市部のため、利用定員以上の需要がありキャパシティが不足している		



出典：https://gakudou.benesse-style-care.co.jp/facilities/area_kanagawa/yokohama/g-ichigao/#message

2) tsukurun(群馬県前橋市)

設置運営事業者	群馬県
設置場所	商業ビル内
運営方法	公設民営。運営事業者スタッフによる運営。
取組内容	アクエル前橋内にある小中高生を対象とした <u>デジタル機材やソフトウェアで創作活動</u> を行うことができる施設。アニメやゲーム（e スポーツ）を題材に、3DCG、ゲームプログラミング、VR 等のデジタル技術を使った創作活動を通し、新たな価値を生み出す人材を育成する、全国初のデジタルクリエイティブに特化した若者人材育成拠点。講演会や講座等も実施。
想定される利用シーン	放課後、休日に児童が利用 営業時間：月・水～金 15:00～20:00、休日-10:00～18:00
対象	小中高生（定員 20 人）
利用料金	無料
想定される事業継続における課題	県の委託事業のため、地域の参画が少ない



出典：<https://www.pref.gunma.jp/page/1139.html>

<https://gunma-tsukurun.jp/>

1-2 医療・福祉法人が運営する事例

1) 上長飯エンゼル児童クラブ(宮崎県都城市)

設置運営事業者	社会福祉法人エンゼル会
設置場所	法人の施設内
運営方法	都城市から民間委託、設置事業者スタッフによる運営のほか、 <u>近隣の中高大学生ボランティア</u> が参加
取組内容	小学生を対象とした学童クラブ。自由時間のほか、施設スタッフによる学習支援、季節ごとの行事などを実施
想定される利用シーン	平日の放課後、休日に児童が利用 営業時間：平日-放課後～18:45、学校休日-7:30～18:45
対象	小学1年～6年生
利用料金	基本料 6,000 円/月
想定される事業継続における課題	学生ボランティアの継続的な参加のための仕組みづくり



出典：<https://www.angelkai-swc.jp/publics/index/53/>

2) 神戸市長尾放課後児童クラブ(兵庫県神戸市)

設置運営事業者	社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会
設置場所	市立児童館内
運営方法	神戸市からの民間委託。地域の NPO 法人等の協力のもと、 <u>利用する高学年の児童を「子どもヘルパー」としてボランティアに参加</u> させる仕組みにより地域の支援につなげている
取組内容	小学生を対象とした学童クラブ。自由時間のほか、施設スタッフによる学習支援、季節ごとの行事などを実施。「子どもヘルパー」という取り組みで、小学生がボランティアとして地域の行事や児童館活動に参画する
想定される利用シーン	平日の放課後、休日に児童が利用 営業時間：平日・放課後～17:00、学校休日-8:00～17:00
対象	小学生 ※ボランティアは中学生も参加可 年間利用者 8,000 人程度 施設面積 257 m ²
利用料金	基本利用料：4,500 円/月 延長利用料：～18 時 1,500 円/月、～19 時 3,000 円/月
想定される事業継続における課題	子供たちが継続的にボランティアに参加し、地域との交流を続ける必要



出典： <http://www.npo-dondoko.net/2020/kansai/nagao.html>

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a47aa9dd-ef4b-43d6-866e-7920c6772e3c/57b7b0f9/20230401_policies_kosodateshien_jidoukan_jissen-jirei-r2_08.pdf

1-3 商業施設×医療・福祉法人の事例

1) キッズランドおやま(栃木県小山市)

設置運営事業者	社会福祉法人洗心会 (小山市が遊具の設置や運営費を助成)
設置場所	商業ビル内
運営方法	民設民営。設置事業者スタッフによる運営。
取組内容	JR 小山駅直結ビル「ロブレ」内にある子供が自由に活動できる遊具を備えた室内遊技場。テナントが撤退した後の5階フロア全体に 2,000 m ² の遊び場をボーネルンドがプロデュース。
想定される利用シーン	休日等
対象	6か月～12歳の児童及び保護者（受入規模 250人）
利用料金	大人 200 円/人、子ども 300 円/人
想定される事業継続における課題	営利施設であり運営には設置事業者のみ関与のため地域との接点が薄い、保護者同伴が前提



出典：https://www.sensinkai.or.jp/kidsland/about_kidsland#roleplay

<https://www.bornelund.co.jp/results/childcare-support/2135.html>

2 実証支援

2-1 実証内容の検討

先進事例調査、後述する検討会議、子どもの居場所づくりに関するアンケート等の結果を踏まえ、子どもや親のニーズが高く、今後継続的な取組の可能性が高いことが想定される取組を抽出した。

1) 子どもの居場所づくりに関するニーズの把握

子どもの居場所づくりに関するニーズを把握するため、ひとり親家庭支援イベントおよびウイングベイ小樽への来場者で、主に未就学～児童期のお子さんがいるような方を対象としてアンケート調査を実施した。

① 調査の概要

日時：2023年8月26日(土)10:00～17:00

対象：ひとり親家庭支援イベントおよびウイングベイ小樽への来場者で、主に未就学～児童期のお子さんがいるような方

調査方法：アンケートへのご協力を依頼するチラシを配布し、webアンケートに回答いただいた

回答数：72件

② 主な結果

- ・ウイングベイ小樽にあったら利用してみたいと思うものとして、親子で楽しめる体験型プログラム（運動、ものづくり、料理教室等）、普段接点のないような地域の方と交流できる場について、約7～8割の回答者において利用したいというニーズがあった。
- ・ウイングベイ小樽に普段なかなか体験できないような体験型プログラムや子どもの豊かな人間性を育てるようなプログラムがあった場合、子どもに利用させたい、あるいは子どもと一緒に利用してみたいという回答者が約8割。
- ・小中学生の保護者においては、ウイングベイ小樽にあったら、平日の放課後・休日・長期休暇の際に利用させたいものは何かという問いに対し、いずれも運動できる場所や趣味等の講座に対するニーズが高い。

2) 実証の概要

先進事例調査、ウェルネス検討会議、子どもの居場所づくりに関するアンケート等の結果を踏まえ、多様な人が参加でき交流が生まれる可能性が期待できる運動プログラムとして「モルック」、普段なかなか体験できない体験型プログラムとして「デジタル系ものづくり講座」(3DCG 制作)の2つについて実証を行うこととした。

2-2 モルック

1) モルック場の開設

すべての子どもたちや地域住民などの居場所・交流の場とするためには、誰でも・いつでも・気軽に使えることが重要である。また、近年のモルック場の動向等を踏まえ、本事業ではウイングベイ小樽内に常設・無料のモルック場を開設することとした。

【モルックの動向】

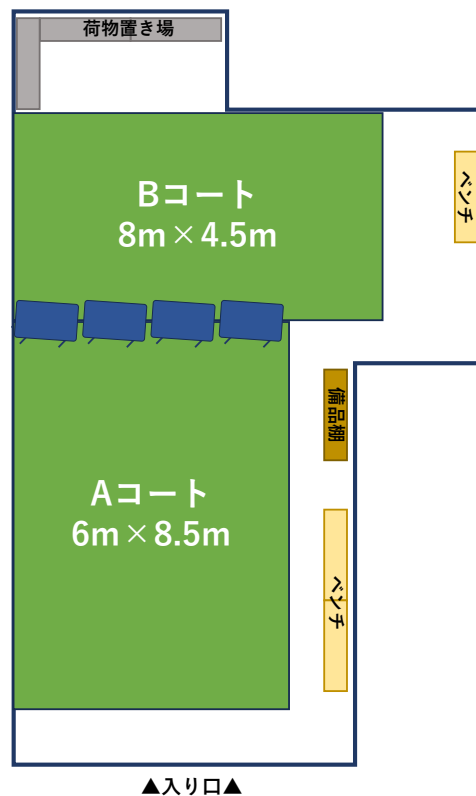
一般社団法人日本モルック協会のモルック指導員へのヒアリング結果

- ・お笑い芸人のモルック世界大会出場等を契機にモルック人口が増加傾向
- ・2024年8月にはアジア初の世界大会が函館市で開催される
- ・冬期間や悪天候の場合、活動場所が限られる
- ・屋内で常設のモルック場は全国的に見ても未だに少ない状況
- ・屋内、常設、無料のモルック場ができれば、全国初になると思う

モルック場の概要については、下記に示す通り。

開設場所	ウイングベイ小樽2番街2階
開設日時	2023/10/14(土)
常設開始日時	2023/11/13(月)～2024/3/31(日)
モルック場の概要	✓ コート2面(詳細は次頁を参照) ✓ 平日は予約なしで誰でも利用可能。土日祝日は完全予約制。両コートともに10:30～13:00、13:30～16:00、16:30～19:00の3枠交代制。 (予約は公式LINE ウェルネス知恵袋から) ✓ モルックセット4セット貸し出し。(手ぶらで楽しめる) ✓ スコアボード、ディスクコーン、バインダー、フェンスは会場備え付け。

モルック場開設場所



ウイングベイ小樽 モルック

ウイングベイ小樽2番街2階に常設・屋内・無料の
だれでも使えるモルックスペースがオープン！
会場にモルックセットもありますので
手ぶらで楽しめます。
平日は予約ナシ、土日祝日は完全予約制！

モルック場の予約方法

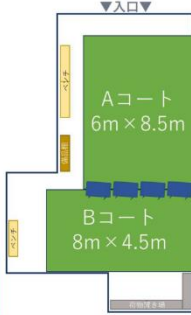
- 公式LINE [ウエルネス知恵袋] に友だち登録
※下記URLまたは右のQRコードからアクセス
<https://lin.ee/bjMDQf9>
- トーク画面⇒[メニュー]⇒[Special企画]
⇒モルックの項目から



QRコードのスクリーンには、LINEアプリのコードリーダーをご利用ください。

【予約について】

- ・土日祝日は、Aコート（手前側）、Bコート（奥側）ともご利用の24時間前までの予約が必要です。
- 【ご利用時間等】
- ・10:30～13:00、13:30～16:00、16:30～19:00
- 【ご利用当日について】
- ・ウイングベイ小樽5番街4階 小樽ベシティ開発にお越しください。（ボウリング場の前でガラス張りの事務所）
- ・各コートにモルック2セットを貸出いたします。
- ・ご利用開始時間を30分過ぎてもご連絡がなく、お越しにならない場合はキャンセルとなります。
- 【その他】
- ・モルックの持ち込み可。お借りの際、会場備え付けのモルックと取り違えないようにご確認をお願いします。
- ・会場の備品などはモルック場予約フォームにある「モルック場の情報」をご確認ください。



お問合せは 小樽ベシティ開発
こちら TEL 0134-21-5000 (10:00～18:00)
※お電話でのご予約も承ります

2) モルックイベントの開催

子どもや地域住民の居場所になるようモルック場の認知度向上や利用促進に向けたモルックイベントを開催した。

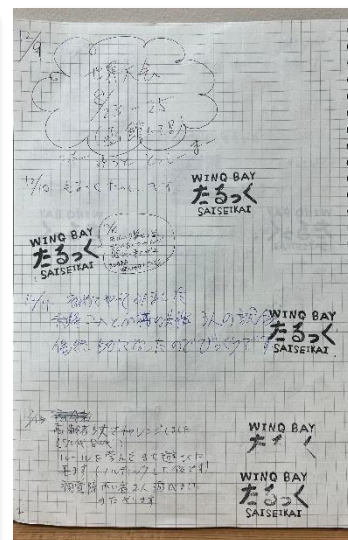
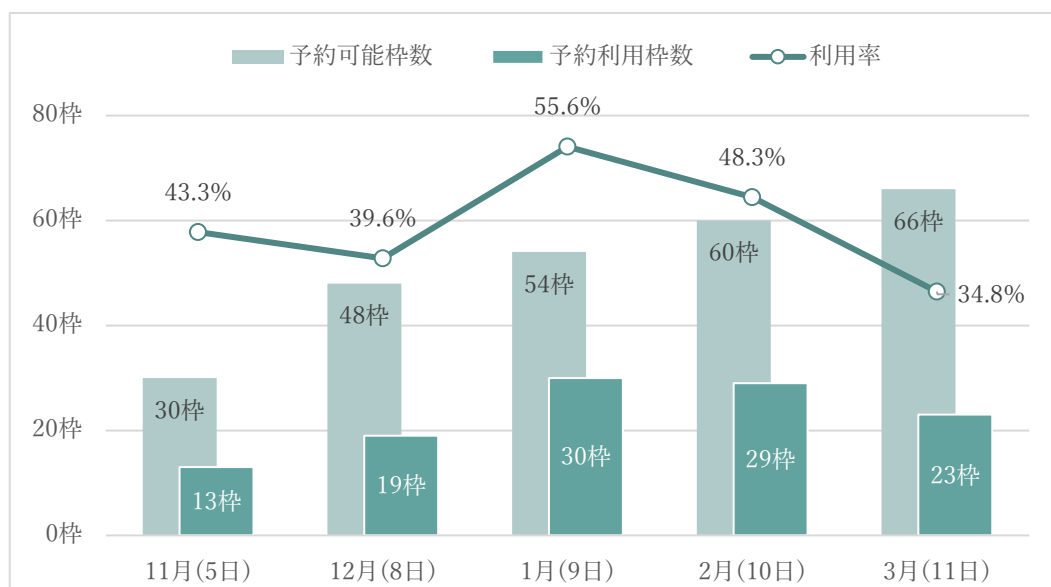
	イベント概要	日時	対象
1	関係者向けの体験会 	2023/10/25(水) 13:00～17:00	本事業関係者、北海道済生会ウエルネスリハデイサービスライヴリー利用者、北海道済生会発達支援事業所きつずてらす利用者 参加者数：31 名 【指導】 大海恵聖・菊池桃子：一般社団法人日本モルック協会モルック指導員、協会公認団体清田 de モルック所属 川村高大・川村泉：一般社団法人日本モルック協会公認団体清田 de モルック所属 若槻稜磨：2022 年モルック世界大会日本代表、一般社団法人日本モルック協会 モルック指導員、協会公認団体 レタラカムイチェブ総合代表
2	小樽近郊のモルッカーによる体験会 	2023/10/29(日) 13:00～16:00	小樽市近郊在住のモルックチーム 参加者数：13 チーム、31 名 ※特に SNS 等での発信力が高い若い層のモルッカーを集め、モルック場の PR 効果を狙ったもの
3	モルック第 1 回札幌大会の事前練習会場として開放	2023/11/18(土) 10:30～19:00	参加者数：6 チーム、12 名 ※全国のモルッカーが集まる大会の事前練習場として開放することで、全国レベルでの PR 効果を狙ったもの
4	モルック講習会 	2024/1/20(土) 10:30～17:00	一般募集 参加者数：70 名 ※初心者向け講習会、レベルアップ講習会、モルック体験ブース開設、モルックで BINGO を開催 【指導】若槻稜磨：2022 年モルック世界大会日本代表、一般社団法人 日本モルック協会 モルック指導員、協会公認団体 レタラカムイチェブ総合代表

3) モルック場の利活用の状況

2023年11月13日～2024年3月31日のうち、土日祝日（12月29日～1月3日を除く）のモルック場の予約利用状況をみると、2月29日時点で次のような結果となった。

期間中の予約可能日数43日（各月の日数は図表参照）、予約可能枠数は258枠（1日あたり6枠）に対し、期間中の予約利用枠数は114枠となり、期間中の利用率は44.2%となった。この数字には、先述したイベントでの利用も含まれているが、地域のモルックチーム等が中心となり、企画・運営したイベントでの利用も見られた。

なお、平日の利用については、正確な利用者数を把握することはできないが、後述する各種アンケート調査の結果やモルック場に設置している交流ノート、管理会社の情報から、平日でも一定程度の利用があり、平日の午前中はシニア層、午後は学生の利用なども確認されている。



会場
ウイングベイ小樽 モルック場（2番街2階）

・手ぶらでOK！
・初めてでも試合できます



12/23（土） モルックイベントやります！

10:30 ～12:00 モルック体験会

参加費：1000円/人
定員：先着20名程度

申込は
こちら→



ルール・投げ方から試合戦術まで、元日本代表の公認指導員が丁寧に解説します！

13:00 ～16:30 第1回モルック小樽CUP

参加費：1000円/チーム
定員：先着10チーム（1チーム2～4名）
対象：小樽に在住・通勤通学で拠点のある方

申込は
こちら→



スタッフがアドバイスや助っ人に入るので、初めての方でも安心です！



主催 ガリガリくん やっぷー。
レタラカムイチエブ（日本モルック協会公認団体）
協賛 北海道済生会

お問い合わせ先
メール：humoluky@gmail.com インスタ：@humoluky

能登半島地震 復興支援CUP



- ✓ウイングベイ小樽
- ✓2月18日(日), 11-18時
- お昼の部: 11時～14時
- 夕方の部: 15時～18時
- ✓Max, 9チーム×2
- ✓1チーム、2-5名
- ✓1000円/チーム



★エントリーフォームの記入
を忘れずをお願いします！

※それぞれ定員に達し次第、
受付を終了いたします

もるまさが責任を持って、**参加費はすべて募金させていただきます。**また、景品として能登の実家にいるもるまさ親から1～2万円分用意していただいています。また、募金箱の設置も行います。

モルックバー代表のもるまさ、モルックバーチームの大好きな地元を少しでも支えていただけたら嬉しいです。



2024.1.7(日)11～17時 新春モルックin小樽

参加・入退場
自由

モルック参加
もちろん無料



ウイングベイ小樽2階 2番街

混雑の場合はHADOでもボーリングでも
好きな事して遊びましょう！

第1回札幌CUPレディース杯 in たるっく

ソロでもグループでも参加可とします。
8枠予定、エントリー方法は別途お知らせします。

チームで女子1人だけどソロは不安という方は
コンササボ部でサポートしますのでご相談ください♪

日時 2024年2月11日(日)
時間 13:00～17:00
参加費 1人500円予定

上位入賞には何かあります、奮ってご参加ください！



コンササボモルック部
kaorin

第1回

モルックやっぷー。杯&体験会



開催日時 3/16(土)
10:30-12:00 体験会
13:00-17:00 やっぷー。杯

場所 ウイングベイ小樽2階
2番街 モルック場
料金 1人あたり数百円

4) 実証参加者の評価の把握

モルック場の利用状況や評価等を把握するため、モルックイベント等への参加者を対象としたアンケート調査を実施した。

主な結果から、屋内×常設×無料であること、利便性の高さが評価されていることがわかる。また、年代やモルックの経験有無に関わらず、幅広い層が利用しており、リピート意向も高く、モルックイベントにまた参加したいやイベント以外でも日常的にモルックをやりたいとの回答も多かった。さらに、地域住民や子ども達にモルックの遊び方を教える側としての協力意向のある方も多かった。

アンケートの結果や、近郊のモルックチーム主催の大会等がすでに実施されていること等を踏まえると、今後、モルック場が子ども達や地域住民の居場所や交流の場となる可能性は十分に考えられる。

区分	主なアンケート結果
小樽近郊のモルッカーによる体験会 日時：2023/10/29(日) 13:00～16:00 参加者数：31 名（小樽市近郊在住のモルックチーム 13 チーム）	無料で利用できること、屋内であることから天候や季節に関係なく利用できること、商業施設内にあることから買い物ついでに利用でき子どもや家族とも利用しやすいこと、食事やトイレの心配がないこと、ウイングベイ小樽が駅から直結であることや広い駐車場があることへの評価が高いことがうかがえる 
モルック 第1回 小樽CUP開催 （※モルック体験会と第1回小樽CUPを実施） 日時：2023/12/23(土) 10:30～16:30 参加者数：40名	【モルック体験会参加者のアンケートの主な結果】 ・家族連れや肢体障がいのある方が参加 ・モルック経験者もいたが、モルック未経験者が多く参加 ・参加者のほとんどがまたモルックイベントに参加したい、モルックイベント以外でも日常的にモルックをやりたい、またウイングベイ小樽のモルック場を利用したいと回答している 【第1回小樽CUP参加者のアンケートの主な結果】 ・参加者は小学生～50代まで幅広い年齢層 ・参加者の半数以上がウイングベイ小樽のモルック場のリピータであり、今後もモルック場の利用意向がある。常設開始から約1か月で一定程度のリピータが確保できていることがう

	かがえる ・モルック場が地域住民や子ども達の交流の場、子ども達の居場所の一つになるよう - 地域住民や子ども達にモルックの遊び方を教えたりすることに対し、回答者の半数以上が協力できると回答 
モルック講習会の開催 (※初心者向け講習会、レベルアップ講習会、モルック体験ブース開設、モルックでBINGOを実施) 日時：2024/1/20(土) 10:30～17:00 参加者数：70名	【初心者向け講習会参加者のアンケートの主な結果】 ・回答者は30～50代で全て1人での参加 ・モルック経験の有無にかかわらず参加 ・またモルックイベントに参加したい、モルックイベント以外でも日常的にモルックをやりたい、またウイングベイ小樽のモルック場を利用したいと回答している 【レベルアップ講習会参加者のアンケートの主な結果】 ・回答者のほとんどがウイングベイ小樽のモルック場のリピータであり、今後もモルック場の利用意向がある。常設開始から約2か月で一定程度のリピータが確保できていることがうかがえる ・モルック場が地域住民や子ども達の交流の場、子ども達の居場所の一つになるよう - 地域住民や子ども達にモルックの遊び方を教えたりすることに対し、回答者のほとんどが協力できると回答 

2-3 デジタル系ものづくり

デジタル系ものづくりは、世界で幅広く活用されている3DCGを制作する無料アプリケーションである「Blender」講座とした。

講座は、小学校高学年～中学年を対象としたクリエイター育成コースと、将来的に地域の子ども達に指導できる人材育成として、中学生以上を対象とした指導者育成コースに分けて実施した。また、手軽に3DCGを体験できるよう一般向け3DCG制作体験会を開催した。

★ クリエイターに教わる
クリエイターのため育成コース

Blender講習

参加者募集

自作のオリジナルキャラクターを
3Dで作って動かしちゃおう！

参加費無料

小学5年生～中学生対象！

日にち 12月3日(日)・10日(日)・17日(日)の3日間
時間 10:30～15:30(12:30～13:30は昼休み)の1日4時間
場所 ウイングベイ小樽5番街1階きつてらすDive(演生会ビレッジ)
対象 小学5年生から中学生 6名(※3日間全て参加)

・マウス操作がスムーズにできる方
・キーボードで入力ができる方
※パソコンはコチラで準備したものをご利用いただけます。
※保護者様のAdobeアカウント登録(無料)が必要となります。
※ご承知の上、ご応募ください。なお、登録方法等につきましては
別途ご案内いたします。

競輪の補助事業 このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

★ 1日目 簡単なものを作って操作に慣れよう
(12月3日)
・3Dモデルを作るためのPC操作を学ぶ
・キャラクターが住むワールドを作る

★ 2日目 手書きのオリジナルキャラクターを
(12月10日)
3Dにしよう
・キャラの特徴を考えて手書きする
・オリジナルキャラクターを3Dでつくる

★ 3日目 オリジナル3Dキャラクターを動か
(12月17日)
そう
・オリジナル3Dキャラクターを動かす
・カッコいい動画を撮る

応募方法

応募フォーム 応募締切

初心者歓迎！ 子どもからプロまで世界中で使われている
「Blender」を使った3D制作の基本が学べます

blender 講習

競輪の子ども達がデジタルツールに触れる機会を増やすための一環として、子ども達が
Blenderの使い方を指導できる人材の育成を目的とした開講会です。

日にち 2月11日(日)・18日(日)の2日間
間 10:30～15:30 (12:30～13:30は昼休み)
所 ウイングベイ小樽5番街1階きつてらすDive
象 中学生以上の大人 8名 (申込先着順)
費 無料

競輪の補助事業 このチラシは、競輪の補助により作成しました。
<https://jka-cycle.jp>

映像やゲームづくりにもつながる3DCG制作

簡単なものを作って操作に慣れよう
2/11 1日目
・3Dモデルを作るためのPC操作を学ぶ
・キャラクターが住むワールドを作る

オリジナルキャラクターを作って動かそう
2/18 2日目
・オリジナルキャラクターを3Dで作る
・オリジナル3Dキャラクターを動かして動画を撮る

キクちゃん先生 ハナ工先生

【お申込み条件】
・全ての日に参加し、現地参加が可能であること
・作品、指導を含む記録映像・画像の広報利用に同意すること
・下記12の機材を持参すること
①無料ソフトBlenderをインストールしたノートPC
(Blenderがスムーズに動作すること)
②3ボタンマウス
※12の機材が難しい場合は要相談。お申込みフォームの06・07にご回答のうえ、
事務局からご連絡をお待ちください。
・CGの知識経験は問わない
※事前にPC環境ができる心算を添った開講レベル(注) 条件を満たさない場合は、お申込みをお取りできない場合がございます。

お申込みフォーム
<https://forms.gle/eFtOE3RtLph5Gxa8>
【申込締切】
2024年2月6日(火) 17:00
※定員になり次第、締め切らせていただきます。

お問合わせ先
mail:health@htri.co.jp TEL:011-231-3053
株式会社北海道二十一世紀総合研究所 担当 岩谷、河原

映像やゲームづくりにもつながる

3D

雪だるまを作ろう！

Blender というパソコンのソフトを使った
子どもから大人まで楽しめる3D制作体験。

小学生から大人まで
※小学5年生以上は保護者同伴での参加をお願いします。

各回 4名 (※日替り)

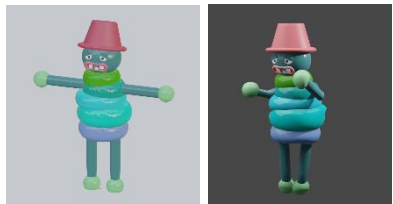
1回目 12:00-13:00 参加費 無料
2回目 15:15-16:15

申込方法 ▶ 当日の各回 60分前から、受付にて先着順にご予約ください。

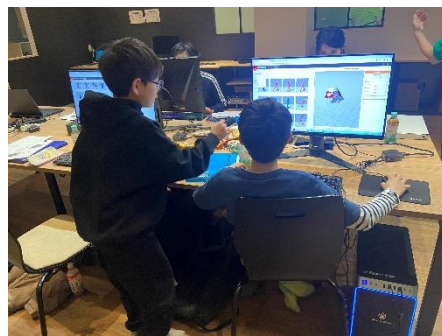
1) 子ども向け Blender 講座 ～クリエイターのたまご育成コース～

子ども向け Blender 講座は、3 日間のプログラムで自作のオリジナルキャラクターを 3 DCG で制作し、アニメーション制作まで行った。

講座の概要は、下記に示す通りである。

	講座の概要
日時	2023/12/3(日)、10(日)、17(日)の 3 日間
時間	10:30～15:30 (途中、1 時間休憩)
場所	ウイングベイ小樽 5 番街 1 階 きっずてらす Dive
参加者	3 名
講師	monmecci モコモコ AR スタジオ AR クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
プログラム	【1日目】 - キャラクターのステージになるワールドを作ろう (基本の操作・マテリアル) - カッコいい画像を撮ろう (ライティング・カメラ・レンダリング)  【2日目】 - オリジナルキャラクターのアイデア出し (キャラシート記入) - キャラクターモデリング (応用の操作・編集モード・ベベル・ループカット)  【3日目】 - キャラクターモデリング (応用の操作・モディファイア) - キャラクターを動かそう (fbx書き出し・mixamo) 

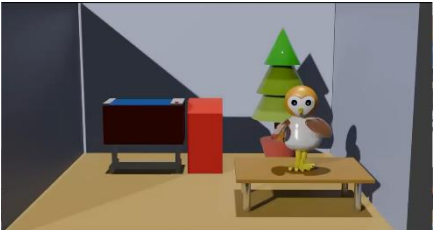
講座の様子



2) 大人向け Blender 講座 ～指導者育成コース～

大人向け Blender 講座は、子ども向け Blender 講座のプログラムを2日間で実施した。

講座の概要は、下記に示す通りである。

	講座の概要
日時	2024/2/10(日)、18(日)
時間	10:30～15:30（途中、1 時間休憩）
場所	ウイングベイ小樽5番街1階 きっずてらす Dive
参加者	9 名
講師	monmecci モコモコ AR スタジオ AR クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
プログラム	【1日目】簡単なものを作って操作に慣れよう ・ 3Dモデルを作るためのPC操作を学ぶ ・ オリジナルキャラクターを3Dで作る 【2日目】オリジナルキャラクターを作って動かそう ・ オリジナルキャラクターを3Dで作る ・ オリジナル3Dキャラクターを動かして動画を撮る
講座の様子	    

3) 一般向け3DCG 制作体験会の開催

一般向け 3 DCG 制作体験会は小学生以上を対象とし、短時間で簡単なモデルを組み合わせて雪だるまを制作するプログラムで実施した。

体験会の概要は、下記に示す通りである。

	体験会の概要
日時	2024/1/20(土)
時間	1 回目 12:00～13:00／2 回目 15:15～16:15
場所	ウイングベイ小樽 5 番街 1 階 きっずてらす Dive 前
参加者	1 回目 4 名、2 回目 3 名（小学校 2 年生～大人）
講師	monmecci モコモコ AR スタジオ AR クリエイター 菊池桃子、渡邊花絵
プログラム	・ 3D で雪だるまを作ろう！
体験会の様子	  

4) 実証参加者の評価の把握

デジタル系ものづくり（Blender 講習、体験会）に対する評価等を把握するため、講習等への参加者を対象としたアンケート調査を実施した。

主な結果から、デジタル系ものづくりは子ども～大人にまで受け入れられるコンテンツであり継続的な利用につながる可能性があること、AR/VR や映像制作など、より幅広いデジタル系ものづくり分野に発展する可能性があること、より多くの方にデジタルツールに触れる場を提供できる可能性があることが伺える。

区分	主なアンケート結果
子ども向け Blender 講習 日時：2023/12/3(日)、10(日)、17(日)の3日間 10:30～15:30 参加者数：3名 アンケート回答者：参加者3名、保護者2名	【参加者のアンケートの主な結果】 ・参加者全員が講習会の内容に「とても満足」と回答 ・1日4時間×3日間の講習時間や期間については、ちょうどよかったという評価が1名、足りなかった・もっと長くてもよいという評価が2名であった ・参加者全員が今後デジタル系の講習会があった場合「ぜひ参加したい」と回答 ・学校の部活動にはないような活動※がウイングベイ小樽にできるとすれば参加したいかという問いに対し、全員が「ぜひ参加したい」と回答 (※今回のBlender講習のようなデジタル系の部活やヨガ部など学校の部活にはないユニークな部活) 【参加者の保護者へのアンケートの主な結果】 ・講習会に参加したことでデジタル系のモノづくりに対して興味・関心が高まったと回答 ・お子さんが講習会終了後に自宅でBlenderを使ったキャラクターづくりを行っていたり、また講習会に参加したいと言っているとの回答もあった
大人向け Blender 講習 日時：2024/2/10(日)、18(日)の2日間 10:30～15:30 参加者数：9名 アンケート回答者：参加者6名	・Blenderの利用経験は、初めてが3件、何度か使ったことがあるが2件、日常的に仕事や趣味活動で使っているが1件 ・講習への参加理由としては、仕事や趣味等の幅を広げるためが3件、新しいデジタルツールに興味があり使えるようになりたかったが3件 ・講習会の全体満足度は全員がとても満足と回答

	・講習時間、講習期間、内容についても、ほぼ全員がちょうどよかったと回答 ・今後、新しいデジタル技術を使ったどのような講座に参加したいかについては、デジタルアート制作、AR・VR制作、映像制作が半数以上であった ・地域の子ども達にBlender等の使い方を教えたり、一緒に作品を制作する企画があった場合、指導者側として協力できるが4件
一般向け 3 DCG制作体験会 日時：2024/1/20(土) 1回目12:00～13:00 2回目15:15～16:15 参加者数：1回目4名、2回目3名	・参加者は小学校2年生～大人 ・Blenderの使用経験ありが4件、使用経験なしが3件 ・Blenderを使った作品づくりについては全員がとても楽しかったと回答、全体満足度についても全員がとても満足と回答しており ・今後、デジタル系のイベントや講習会があった場合、全員がぜひ参加したいと回答 ・学校の部活動にはないような活動※がウイングベイ小樽にできるとすれば参加したいかという問いに対し、ほぼ全員が「ぜひ参加したい」と回答 ※Blender講習企画時、内容や操作の難易度的に小学生高学年以上が対象になると想定していたが、この体験会においては小学校2年生が講師の説明した内容を理解し、操作もでき、3 DCGモデルを制作できた。ただし、大人が使う器材（マウス）の場合、子どもの手には合わずにやり辛そうな場面が見られた。こうしたことから、器材（マウス）を小さめにするなどの工夫をすることで、想定よりも小さな子どもからBlender講習に対象になることがわかった

3 実証結果と今後の方向性

3-1 実証の結果

1) モルック

モルックについては、国内の競技人口の増加や 2024 年 8 月の函館市におけるアジア初の世界大会開催等もあり、注目度の高いスポーツである。また、ルールが簡単で、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが参加しやすいことが魅力である。

今回の実証においては、屋内×常設×無料のモルック場を開設し、モルックセットを 4 セット備え付け、平日は予約不要でいつでも・誰でも・手ぶらで使える環境と整えたことに加え、モルック場の利用促進に向けた周知にも力を入れた。具体的には、モルック世界大会への出場経験があるモルッカーを講師に招きイベントを開催したほか、若年層で SNS 等での発信力が高いモルッカーを集めた体験会を開催した。また、ウイングベイ小樽公式 LINE「ウエルネス知恵袋」で土日祝日の予約システムを構築したことにより、より多くの人にモルック場の PR ができたとともに、日常的に使うスマホアプリから気軽に予約できるようにしたことは、利用促進にもつながったと考えられる。

先述した実証参加者のアンケート結果からも、モルック場が子ども達や地域住民の居場所や交流の場となる可能性は十分に考えられる。

2) デジタル系ものづくり

メタバース、VR・AR、アバター、Vtuber など、デジタルコンテンツが増加している中、今後はデジタルコンテンツを作れる人材が求められると考えられ、子どものうちから新しいデジタルツールに触れる機会を増やしたり、指導できる人材を育成することが重要との考えから、デジタル系ものづくりを実施した。

本事業においては世界中で子どもからプロまで使われている 3DCG 制作のフリーアプリケーションソフト Blender を使った講習会を開催した。

当初、講習内容や操作の観点から対象年齢としては小学生高学年以上が妥当と想定したが、Blender 体験会において小学校 2 年生が参加し、3D モデルを制作する場面があり、想定以上に幅広い年齢層への広がりが期待できる。

先述した実証参加者のアンケート結果からも、デジタル系ものづくりは継続性や幅広い分野への発展性が期待でき、ウイングベイ小樽が新しいデジタルツールに触れられる拠点になる可能性も考えられる。

3-2 今後の方向性

モルックについては、モルック場の利用促進をはじめ、モルックの裾野を広げ利用者を増やすことも重要となる。これに向け今後はモルックの指導者育成、地域住民が主体となり持続できる仕組みづくりが重要となる。

その際は、本実証参加者で地域住民や子ども達にモルックの遊び方を教える側として協力できると回答した方、すでにモルック場を活用してイベントを企画運営しているモルックチーム等を中心に検討チームを組成し、子ども向けの体験イベントや指導者育成講座の企画運営等を試行することなどが想定される。

デジタル系ものづくりについては、提供するプログラムの検討と利用促進が重要である。例えば、子どもから大人まで楽しく継続的に参加できるように特定のプロジェクトを組成し、長期的に取り組むことなどが想定される。

【特定プロジェクト(案)】

- ・ウイングベイ小樽の季節のイベントに合わせた AR アート等の制作
- ・ウイングベイ小樽をモチーフとしたゲーム制作
- ・短編映画祭への出展を目指したショートフィルムの制作

また、モルックと同様に指導者育成と地域住民が主体となり持続できる仕組みづくりが重要であるが、モルックに比べ指導者側に立てる人材が現時点では非常に少ない状況にある。そのため、本実証参加者で地域の子どものために Blender 等の使い方を教えたり、一緒に作品を制作する企画があった場合、指導者側として協力できると回答した方には、上記に挙げたような特定プロジェクトにも参加してもらい、指導者としてのスキルを磨いてもらう等が考えられる。

さらに、ウイングベイ小樽における子どもの居場所づくりに向けては、モルックやデジタル系ものづくり以外のコンテンツの可能性を探ることも重要である。

そのため、子どもから大人まで誰でも参加できる学校の部活動にないような活動（ヨガ部、地域のお仕事体験部、学校でできなくなった部活など）を「地域の部活動」と位置づけ、地域の子どものニーズを探る調査や、子ども達のニーズに対応できる指導者を発掘する調査等も必要と考える。

Ⅲ 放課後児童デイサービス等を補完する機能整備に向けた支援

1 職業体験特化型事業所のサービス内容や対象の拡大に向けた支援

Blender 講習は子どもに非常に好評であった。また、Blender で制作した 3D モデルは、デジタル上においてアバターやゲームのキャラクターとしての活用のみならず、3D プリンターで出力することでオリジナルグッズにすることもできる。

今後、放課後児童デイサービスを利用している子どもや職員によるオリジナルグッズ制作等に発展する可能性もあることから、放課後児童デイサービスを利用している子どもや職員向けの Blender 講座の開催を提案した。

これを受け北海道済生会では、きつずてらす Dive の職員と利用者向けの Blender 講習を開催し、作成した 3D モデルを 3D プリンターで出力するデジタル系ものづくり講習会を開催した。



2 デジタルリハビリの対象の拡大に向けた支援

デジタルリハビリの対象拡大に向けて、Blender で作った 3D キャラクターとデジタルリハビリの融合について提案した。

デジタルリハビリの利用者、きつずてらす Dive の利用者、地域子ども達などが Blender でキャラクターを制作し、北海道済生会の理学療法士や作業療法士等の監修のもとアニメーションをつけ、デジタルリハビリのリハビリプログラムとして展開する企画を提案した。また、こうした企画にゲーミフィケーションを活用することによって、障がいの有無に関係なく、すべての子ども達が一緒に楽しめるなど、利用促進につながると考えられる。

IV ソーシャルインクルージョンのさらなる方策の推進に向けた検討

1 子育て期の就労をサポートする仕組みづくりに関する調査検討

1-1 子育て期の女性の新たな働き方に関する先進事例調査

ここでは、下記に示すような子育て期の女性の多様なニーズに対応した新しい働き方に関する先進事例を調査した。

【子育て期の女性のニーズ例】

- ・可能な限り子どもの近くで仕事をしたい
- ・まだ保育園等に入園していないがちょっとした時間だけでも仕事をしたい
- ・産休・育休明けの本格的な職場復帰の前に体を慣らすための仕事がしたい
- ・子どもが小さいため企業への就職は難しいが専門スキルを活かして働きたい
- ・子どもの下校時間を気にせずに仕事したい
- ・自宅でも仕事ができるようなスキルを身に着けたい 等

1) キッズスペース併設のワーキングスペース(株式会社ママスクエア)

事業者	株式会社ママスクエア（東京都）
ビジネスモデル	・「ママスクエア」は「子どものそばで働ける世の中を作りたい」という思いから生まれたキッズスペース併設のワーキングスペース。ワーキングスペースからガラス越しに見える位置にキッズスペースを併設し、保育園でもない在宅でもない新しいワーキングモデル。ママが安心して働けるよう、また子どもたちが楽しく過ごせるよう、キッズスペースには専任のキッズサポートスタッフが常駐。 ・ワーキングスペースとキッズスペースで働くママは、ママスクエアで雇用し、企業から受託したコールセンター業務やデータ入力等の業務をワーキングスペースで実施。キッズスペースではワーキングスペースやキッズスペースで働くママの子どもの見守り・遊びのサポートを実施。 ・BPO モデル以外にも、行政連携モデル、物流業界向けの物流モデルなど、幅広い分野での事業を展開。



参考：<https://www.mamasquare.co.jp/>

2) 学童併設型シェアオフィス(エミフェス練馬)

事業者	事業主：株式会社西武リアリティソリューションズ アフタースクール運営会社：株式会社ウィズダムアカデミー
ビジネスモデル	・学童保育併設のシェアオフィス ・子どもが放課後を安心して過ごすことができる環境と多様な教育プログラムを用意し、子どもを見守りながら落ち着いて仕事ができる環境を提供 ・サービス内容：最長 21 時までの預かり、おやつ・食事提供、学校の宿題サポート、イベントプログラム、放課後・長期休暇中の預かり、習い事、送迎付添など



参考：<https://emiffice.jp/nerima/>

3) スーパーを拠点としたデジタルスキル習得支援拠点(おしごとハブ)

事業者	株式会社ウェブサイト（宮崎県宮崎市）
ビジネスモデル	・女性が集まりやすいスーパーに女性のデジタルスキル習得支援拠点「おしごとハブ」を設置し、学習のみならず実際の「お仕事」を受託できる仕組みを構築。デジタルを活用した女性の新しい働き方の提案と地域事業者の生産力向上支援を担う。 【スキル習得レクチャー(例)】 ・写真の加工、画像の作成 (Photoshop) /WEB3.0、NFT、メタバース、DAO/V チューバー/クリエイターエコノミーについて/マーケットイン、プロダクトアウト/WEB、ワードプレスを仕事にするには/ワードプレスカスタマイズ/illustrator でチラシ制作/フリーランスの心得等 【スキルアップのための仕事として受託した案件(例)】(株式会社ウェブサイトからの受託案件) ・宮崎県観光サイトのメインバナー作成/日本語学校の英語ページ制作/ショッピングモールの商品情報入力/リノベーション会社のインスタグラム運営代行/スーパーマーケット WEB サイト更新サポート 【ハブ生がスキル習得により独自に受託した案件(例)】 ・フラダンスイベントのチラシ、チケット制作/カフェグッズのパッケージデザイン/占いショップの公式 LINE の開設/企業の WEB サイト制作



参考 URL : https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digitaldenen/menubook/2022_winter/00044.html

1-2 子育て期の女性の新たな働き方に関するニーズ調査

1) 調査の概要

先述したⅡ 2-1-1)に記載したアンケート調査では、キッズスペース併設のワーキングスペース等に対するニーズに関する設問も設け、こうした施設に対する子育て期の女性のニーズを把握した。

日時：2023年8月26日(土)10:00～17:00

対象：ひとり親家庭支援イベントおよびウイングベイ小樽への来場者で、主に未就学～児童期のお子さんがいるような方

調査方法：アンケートへのご協力を依頼するチラシを配布し、webアンケートに回答いただいた

回答数：72件

2) 主な結果

- ・ウイングベイ小樽に仕事や自分のやりたいこと（趣味活動など）に集中できるワーキングスペースと未就学児を対象としたキッズスペース(専門スタッフが常駐し子どもを見ていてくれる)が併設しているような施設や、ワーキングスペースと放課後児童クラブの機能が併設しているような施設があった場合、それぞれに対し約6割の回答者に利用ニーズがある。

1-3 企業における子育て期の従業員の新たな働き方に対する意識調査

小樽市近郊の企業における子育て期の従業員の新たな働き方に対する意識等を把握するため、アンケート調査を実施した。

1) 調査の概要

日時：2024年2月28日(水)～3月12日(火)

対象：小樽市内および札幌市内の企業 1,095件

札幌市内の企業については、一般的にテレワーク導入の割合や女性従業員の割合が多い業種従業員数等を考慮しを主な対象とした

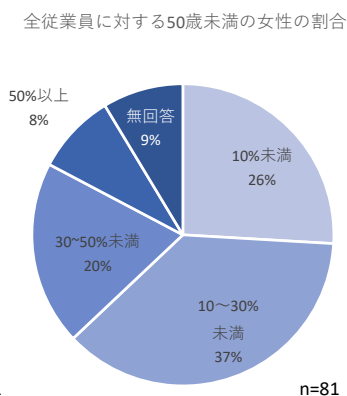
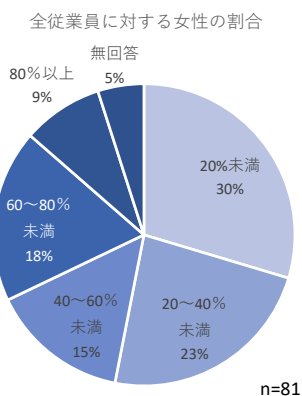
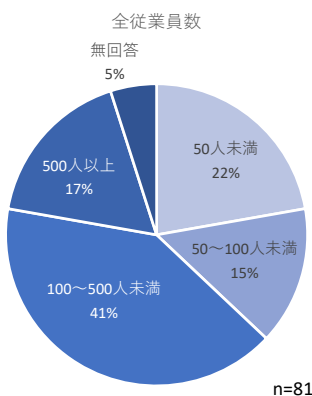
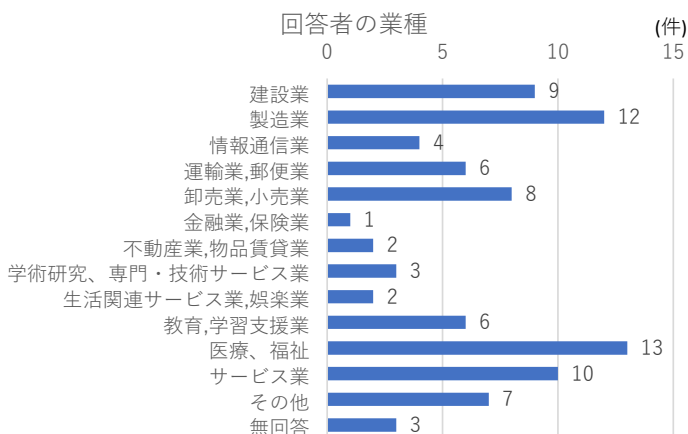
調査方法：郵送、web

回答数：81件

2) 主な結果

① 回答者の概要

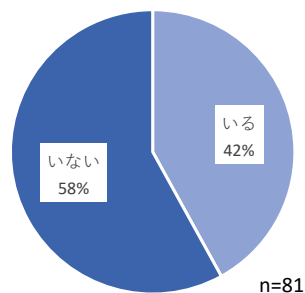
- ・回答者の業種は、「医療、福祉」が最も多く、次いで「製造業」「サービス業」となっている。
- ・全従業者数は、「100～500人未満」が41%で最も多く、次いで「50人未満」が22%となっている。
- ・全従業員に対する女性の割合は、「20%未満」が30%と最も多く、次いで「20～40%未満」が23%となっている。
- ・全従業員に対する50歳未満の女性の割合は、「10～30%未満」が37%と最も多く、次いで「10%未満」が26%となっている。



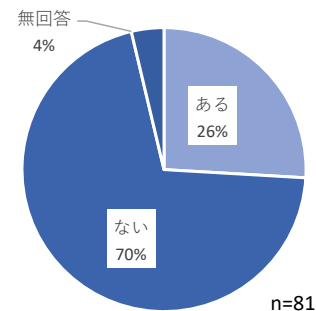
② 女性従業員の就労状況

- ・約4割の企業において、直近10年間で妊娠・出産・子育てを理由に退職した女性従業員がいる。
- ・約3割の企業においては、福利厚生として、妊娠・出産・子育てと仕事の両立をサポートする独自の取り組みを行っている。具体的には育児休業の延長、看護休暇を有給、法定よりも日数を多く取得可能、時短勤務可能期間の延長、保育施設の設置等が挙げられた。
- ・約7割の企業においては、子育て期の女性従業員のニーズに対応した安心して働ける環境が整った施設があった場合、自社の子育て期の女性従業員に利用させたいと回答している。

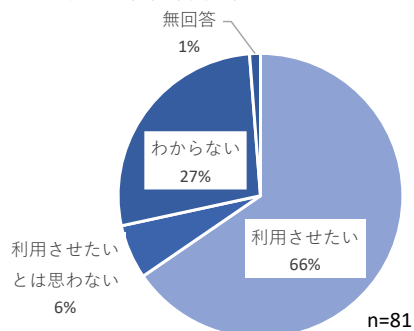
直近10年間で妊娠・出産・子育てを理由に退職した女性従業員はいますか？



福利厚生として妊娠・出産・子育てと仕事の両立をサポートする御社独自の取組はありますか？



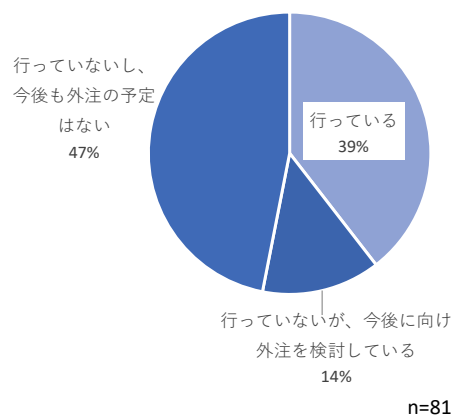
子育て期の女性従業員のニーズに対応した安心して働ける環境が整った施設があった場合、御社の子育て期の女性従業員に利用させたいと思いますか？



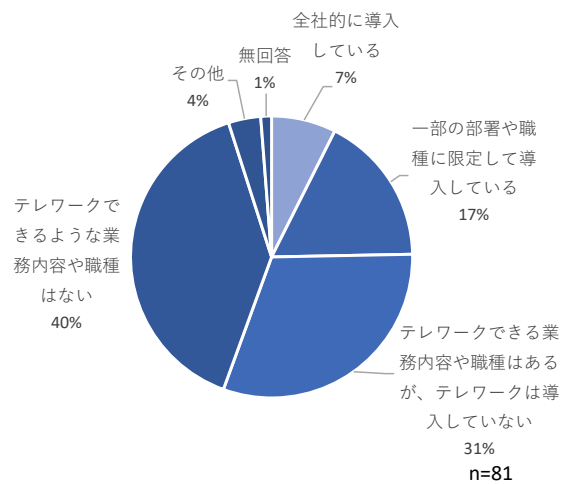
③ 外注やテレワークの導入について

- ・ 人手不足の解消や業務効率化・コスト削減のために継続的に業務を外注している企業が約4割、現時点では外注していないが今後に向け検討中が約1割。
- ・ テレワークの導入状況は、全体の約1／4がテレワークを導入しており、約3割がテレワークできる業務はあるが導入には至っていない状況にある。

人手不足の解消や業務効率化・コスト削減を目的として、継続的な業務の外注（アウトソーシング）を行っていますか？



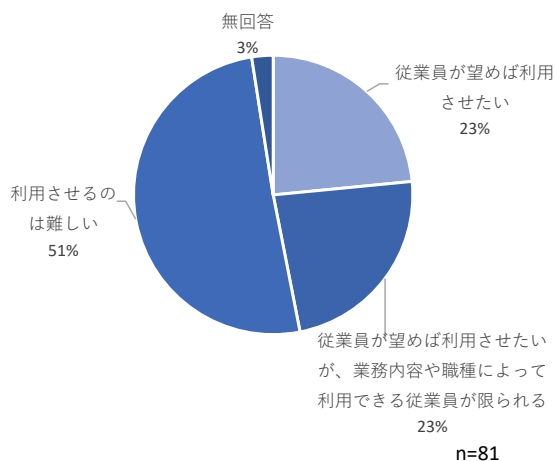
テレワークを導入していますか？



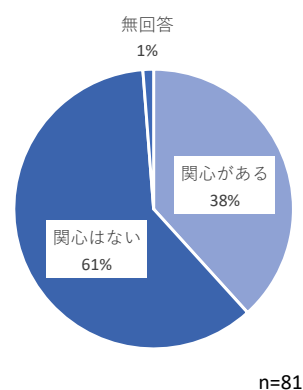
④ 子育て期の女性の新たな働き方について

- ・キッズスペース（専門のスタッフによる託児付き）併設型のシェアオフィスがあった場合、従業員が望めば利用させたいが約2割、従業員が望めば利用させたいが、業務内容や職種によって利用できる従業員が限られるが約2割となっている。また、約4割がこうした施設の運営に関心があると回答している。
- ・ウイングベイ小樽にキッズスペース併設型のシェアオフィスがあった場合、約4割が自社の子育て期の従業員に利用させたいと回答している。

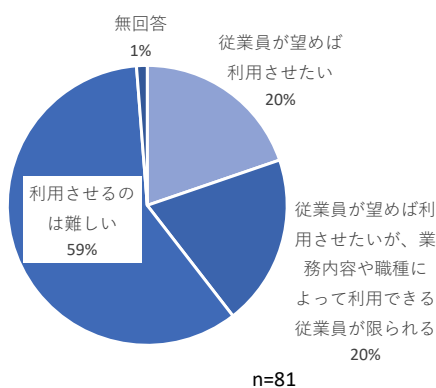
キッズスペース併設のシェアオフィスがあった場合、御社の子育て期の従業員に利用させたいと思いますか？



キッズスペース併設のシェアオフィスの運営について、関心はありますか？

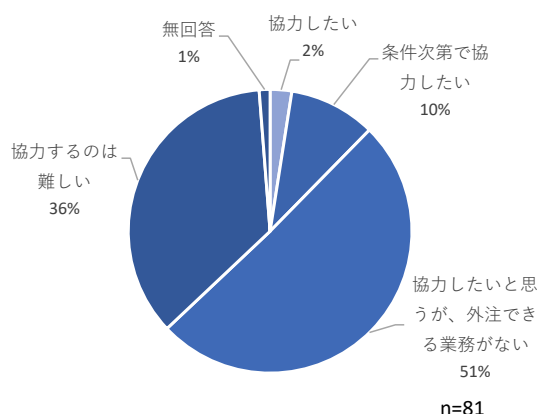


ウイングベイ小樽にキッズスペース併設のシェアオフィスがあった場合、御社の子育て期の従業員に利用させたいと思いますか？

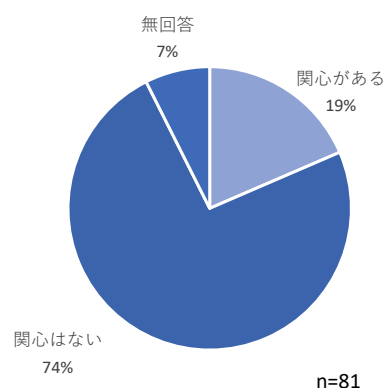


- ・約1割の企業が地域社会貢献の一環としてキッズスペース（専門のスタッフによる託児付き）併設型で子育て期の女性が安心して働き、収入を得られるよう配慮している事業所に業務を外注したい（「協力したい」「条件次第で協力したい」と回答、約半数の企業は協力したいと思うが外注できる業務がないと回答している。
- ・約2割の企業がこうした事業所の運営に関心があると回答している。また、ウイングベイ小樽にこうした事業所があった場合、約1割が業務を外注したい（「協力したい」「条件次第で協力したい」と回答、約4割の企業は協力したいと思うが外注できる業務がないと回答している。

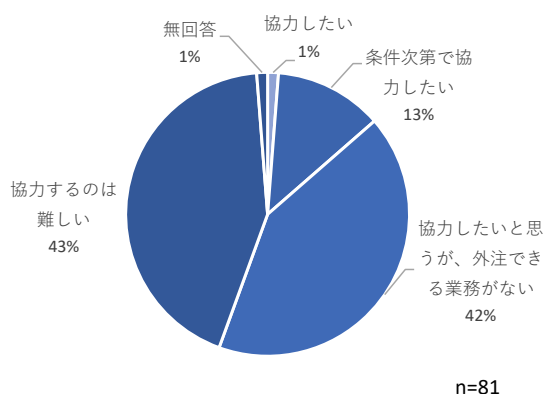
地域・社会貢献の一環として、キッズスペース併設型で子育て期の女性が安心して働き、収入を得られるよう配慮している事業所に業務を外注したいと思いますか？



キッズスペース併設型で子育て期の女性が安心して働き、収入を得られるよう配慮している事業所を運営することに関心はありますか？



ウイングベイ小樽にキッズスペース併設型で子育て期の女性が安心して働き、収入を得られるよう配慮している事業所があった場合、地域・社会貢献の一環として、業務を外注したいと思いますか？



3) 企業ヒアリングの結果

キッズスペース（専門のスタッフによる託児付き）併設型のワークスペースに関心のある企業に対し、こうした施設に対するニーズ等をヒアリングした。

【主な内容】

- ・業種：広告代理店（札幌市）
- ・事業内容としては、学校のデータ整理、百貨店や自動車販売店のDM対応、キャンペーンハガキの応募内容整理などを主に実施している。

○託児付きのワークスペースについて

- ・実現していないが、過去に事業所内に託児スペースの開設を検討したことがあった。
- ・女性従業員が多く、子育て期の従業員も多いことから、従業員確保のためにも託児付きのワークスペースは魅力的である。
- ・個人情報がないもの（企業名のみなど）であれば、データ入力などはシェアオフィス型での対応も可能である。
- ・コールセンターの場合、シェアオフィス型（互いの契約関係にない他の企業の従業員も一緒に使うスペース）での業務は嫌がられる可能性があるのではないか。
- ・同事業者の業務内容の場合、同事業者専用の託児付きのワークスペースとして、他社からの外注を受ける形態が想定しやすい
- ・シェアオフィスにする場合、個人事業主、行政書士、新規で起業する人にはいいのではないか
- ・企業が事務職の福利厚生として、このような託児付きワークスペースを持っていると良いかもしれない

1-4 子育て期の就労をサポートする仕組みの検討

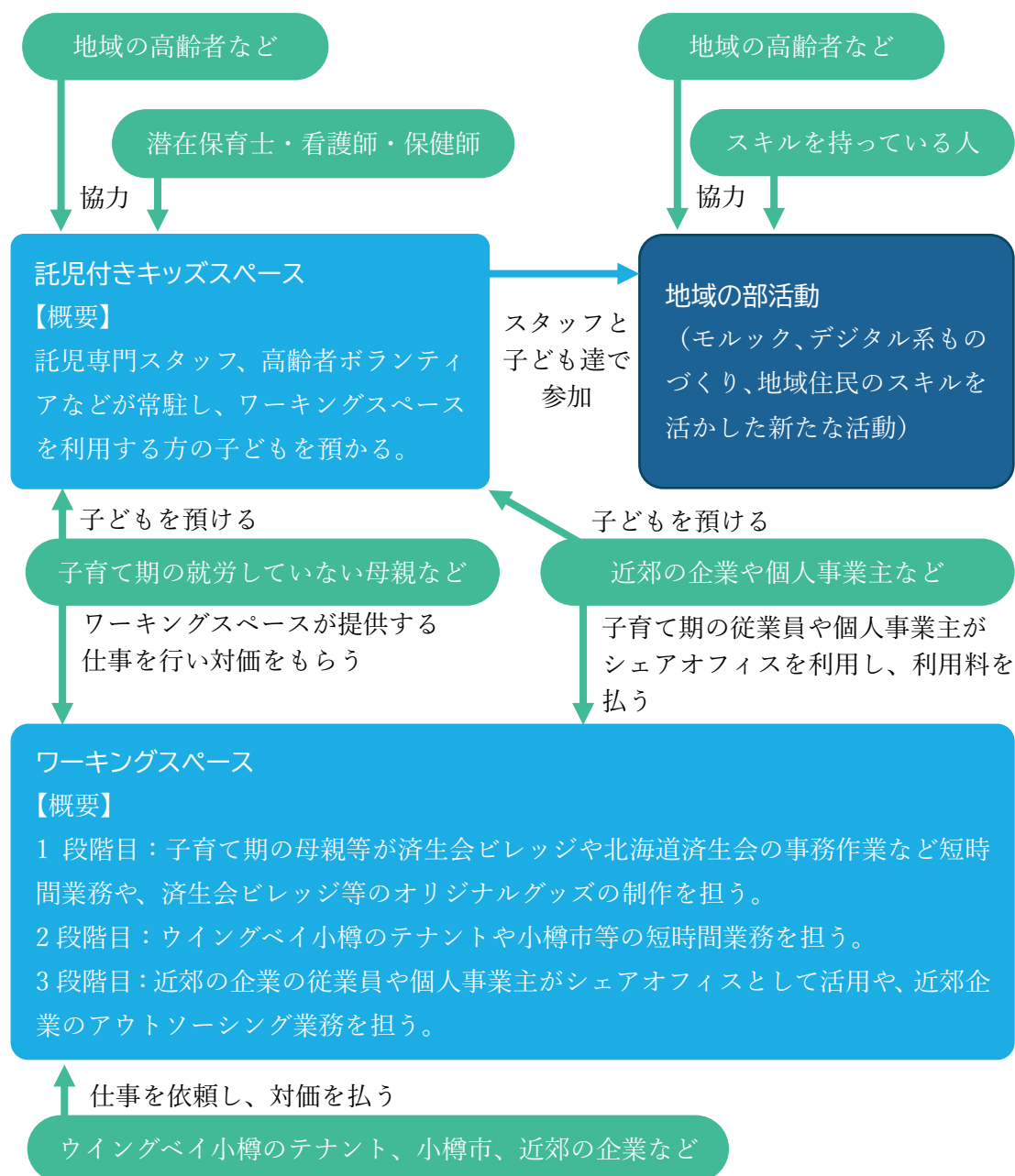
1) 子育て期の女性の就労サポート機能に対するニーズ

先述した子育て期の女性の新たな働き方に関するニーズ調査、企業における子育て期の従業員の新たな働き方に対する意識調査の結果、次のようなことが伺える。

- ・ウイングベイ小樽を利用する子育て期の女性においては、ウイングベイ小樽におけるキッズスペース（専門スタッフ常駐）併設のワーキングスペースや学童保育併設のワーキングスペースに対する利用ニーズが見られた。
- ・小樽近郊の企業においては、子育て期の女性従業員のニーズに対応した安心して働ける環境が整った施設があった場合、自社の子育て期の女性従業員に利用させたいという意向が高い。
- ・ウイングベイ小樽にキッズスペース（専門スタッフ常駐）併設のシェアオフィスがあった場合、約4割程度の企業では従業員が望めば利用させたいと回答している。ウイングベイ小樽にキッズスペース（専門スタッフ常駐）併設で子育て期の女性が安心して働き、収入を得られるよう配慮している事業所があった場合、業務を外注したいと回答した企業が約1割であった。
- ・上記を踏まえると、子育て期の女性においても、企業においてもウイングベイ小樽にキッズスペース併設型で子育て期の女性が安心して働ける環境に対するニーズは一定程度あることがわかる。

2) 子育て期の女性の就労をサポートする仕組みの検討

ここでは、これまでの結果を踏まえ、ウイングベイ小樽において想定される子育て期の女性の就労をサポートする機能や仕組みのイメージについて例示する。



2 フードバンクや地域食堂の機能を生かしたソーシャルインクルージョンの推進方策の検討

2-1 フードバンクについて

1) フードバンクの現状

フードバンク事業は、2021 年の済生会ビレッジの開設とともに開始した事業である。フードバンクは、安全に食べられるのに家庭で消費予定のない食品や、企業の過剰在庫、わけあり品を個人や企業から寄贈していただき北海道済生会に集め、地域の相談事業者やケアマネジャー等が地域の食料ニーズを把握したうえで、必要に応じて北海道済生会へ希望する食材を連絡し、必要とされている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動である。

2022 年度は個人や企業等から米、カップ麺、野菜、お菓子、飲料など 6,199kg の寄贈があった。2023 年には小樽市内の相談支援事業所、居宅介護支援、包括支援センター、地域食堂等、困窮者の窓口になる約 30 名と連携して事業を推進している。

このように 2021 年の事業開始以降、フードバンク事業は小樽市内に浸透してきた。これに伴い食材需要が高まり、供給不足という課題が出てきた。



2) フードバンクの課題解決に向けたアドバイス

今後、食材を効率的に集めるためには、「食材を集める拠点を増やすこと」、「拠点は地域住民が身近でよく行く場所であること」などがポイントになると考えられる。こうした条件に合致する企業や団体に対し、「社会貢献」「SDGs」の観点からそれぞれの施設における食材を集めについて、協力を募ることを提案した。

この提案を受け、北海道済生会では、市内社会福祉法人で構成されるしあわせネットワーク小樽、市内保育園ネットワークに対し、各施設内に食材を集める拠点となる『フードドライブスポット』設置の協力に関するプレゼンテーションを実施した。また、小樽市の紹介によりイオン北海道と連携することとなり、2023年10月から毎月5日～11日に店内で食材を回収し、北海道済生会に寄贈いただくこととなり、安定した食材供給を実現させることができた。



<https://www.aeon-hokkaido.jp/corporation/social/activity/125733/>

2-2 地域食堂について

1) 地域食堂に関する意識調査

先述したⅡ 2-1-1)に記載したアンケート調査では、地域食堂に関する設問も設けた。ここでは、ソーシャルインクルージョンのさらなる推進に向けた方策検討の参考とするため、地域食堂の認知度やウイングベイ小樽にあった場合の利用意向、運営スタッフ・ボランティアとしての参加意向の設問によって地域食堂に関する意識を把握した。

① 調査の概要(再掲)

日時：2023年8月26日(土)10:00～17:00

対象：ひとり親家庭支援イベントおよびウイングベイ小樽への来場者で、主に未就学～児童期のお子さんがいるような方

調査方法：アンケートへのご協力を依頼するチラシを配布し、webアンケートに回答いただいた

回答数：72件

② 主な結果

- ・ これまでに「地域食堂」を利用したことがある人は約2割で、8割以上は利用経験がない。
- ・ ウイングベイ小樽に「地域食堂」ができた場合、約5割に利用ニーズがある。
- ・ ウイングベイ小樽に「地域食堂」ができた場合、約3割に運営側のスタッフ・ボランティアとして参加したいという意向がある。

2) 持続的な運営を図るための可能性や課題に関するアドバイス

アンケート調査の結果、地域食堂の利用経験がない方が多く、なじみにない方が多いことが伺えるが、半数に利用ニーズがあることがわかった。

ウイングベイ小樽における地域食堂は、北海道済生会のフードバンク事業、障がい者支援事業とも連動した取組となるため、社会的意義が非常に高い取組と言える。

地域食堂の開設の際には、地域食堂を利用すること自体が地域課題解決や地域貢献につながることをアピールすることが利用促進の一助になると考えられる。

また、運営側として参加したいという回答者もいることから、開設準備の段階から、こうした地域住民を巻き込み、住民主体での継続的な運営体制の構築を図ることが重要となる。

3 地域住民のサポート体制構築に向けた検討

3-1 関係団体へのヒアリング

子どもの居場所づくり、母親の就労サポートに繋がる事業、地域食堂・フードバンク事業等の持続可能な運営に向けた地域住民のサポート体制構築に向けた検討を行うため、地域において高齢者の介護予防等を行っているボランティア団体等にヒアリングを行った。主なヒアリング内容は下記の通り。

【ヒアリング日時・場所】

- ・令和6年3月26日(火)13:00～14:00
- ・ウイングベイ小樽内済生会ビレッジ

【ヒアリング対象】

- ・介護予防教室おくさわサポーターリーダー 濱崎ゆう子
- ・NPO 法人ほほえみ小樽音楽療法研究会 代表理事 笠原祐子
- ・小樽市南樽地区民生児童院協議会 会長 佐々木則子

【主な結果】

- ・高齢者が子どもとの接点を持つことは非常に良いことだと思う。昔は、町内会においても、お祭りなど子どもとの接点があったが、現在では子どもの数が少なくなったこともあり、高齢者と子どもの接点が少なく関係性も希薄である。
- ・ウイングベイ小樽において子どもから高齢者まで誰でも参加できる活動があれば、ぜひ参加したい。
- ・介護予防教室等に参加している人の中には、社協の生活指導員や介護予防のサポーターを兼任している人も多く、こうした人は子どもの居場所づくり、託児、地域食堂などのボランティアにも協力的だと思う。
- ・介護予防教室等に参加している人は、ユニークな人も多く、フラダンス、裁縫、ものづくり、英語、百人一首など、様々なスキルを持っている人が多いため、子どもの居場所づくりにおいて、指導側に回れる人材もたくさんいると思う。
- ・介護予防教室を通じて、高齢者が地域に提供できるスキルを把握したり、指導側になり得る人材発掘をするのも良い。
- ・モルックについては、やってみたい高齢者は多いと思う。介護予防教室への出張体験会を開催し、やり方をレクチャーすれば指導側になりたいという人材は出てくると思う。こうした取組を行うことで、ウイングベイ小樽のモルック場に来る高齢者も出てくるのではないかな。
- ・高齢者にボランティアとして参加してもらうためには、ウイングベイ小樽までの足の確保が非常に重要である。移動手段が確保できれば、ボランティアとして協力してくれる人は多いと思う。

3-2 地域住民のサポート体制構築に向けた課題

ヒアリングの結果、ウイングベイ小樽における子どもの居場所づくり、母親の就労サポートに繋がる事業、地域食堂・フードバンク事業等へのボランティアとしての参加については前向きな意見が多かった。

今後、具体的な体制構築に向けては、今回のヒアリング対象者を中心に市内の他の介護予防教室とも連携を取りながら、実際にボランティアに参加可能な人材の発掘などが必要となる。

また、ボランティア参加者のウイングベイ小樽までの足の確保が課題となる。これについては、高齢者ボランティアに限ったことではなく、今後、児童が放課後にモルック場等を利用したい場合や、子育て期の女性がキッズスペース併設のワーキングスペースを活用したい場合についても同様であると考ええる。

4 ウエルネス会議の開催支援

本事業においては、facebook の Messenger 上にモルック、デジタル系ものづくりのグループを作り、各実証の内容に関する検討や情報交換を行った。

また、事業の進捗状況の共有やイベントの企画等に関しては適宜オンラインミーティングを開催し、本事業が円滑に進むように努めた。

5 成果報告会の運営支援

北海道済生会が2024年3月9日にウイングベイ小樽で実施した「小樽みらい共生祭り」において、本事業の成果について報告した。



デジタル系ものづくり

- ・メタバース、VR・AR、アバター、Vtuberなど、デジタルコンテンツが増加
- ・今後、デジタルコンテンツを作る人材が求められるのでは？
- ・子どものうちからデジタルツールに触れる機会を増やす、指導できる人材を育成する

blender 講習会 世界中でも子ども〜プロまで使われている3DCG制作のフリーアプリケーションソフト

- ①子ども向けBlender講座 ～クリエイターのたまご育成コース～（対象：小学校高学年～中学生）
- ②大人向けBlender講座 ～指導者育成コース～（対象：中学生～大人）
- ③Blender体験イベント（対象：小学生～大人）



子ども向けBlender講座 ～クリエイターのたまご育成コース～

講座の概要		
日時	2023/12/3(日)、10(日)、17(日)の3日間	
時間	10:30～15:30（途中、1時間休憩）	
場所	ウイングベイ小樽5番街1階 きっずてらすDive	
参加者	3名（小学校5・6年生）	
講師	monmecci モコモコARスタジオ ARクリエイター 菊池桃子、渡邊花絵	
プログラム	【1日目】	【2日目】
	・キャラクターのステージになる	・オリジナルキャラクターのアイデア出し
	・ワールドを作る	・キャラクターモデリング

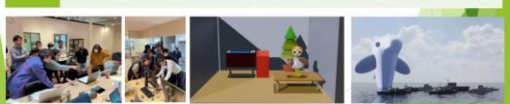


クリエイターのたまご育成コース講習会の様子



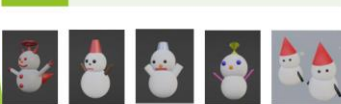
大人向けBlender講座～指導者育成コース～

講座の概要		
日時	2024/2/11(日)、18(日)の2日間	
時間	10:30～15:30（途中、1時間休憩）	
場所	ウイングベイ小樽5番街1階 きっずてらすDive	
参加者	9名	
講師	monmecci モコモコARスタジオ ARクリエイター 菊池桃子、渡邊花絵	
プログラム	【1日目】	【2日目】
	簡単なものを作って操作に慣れよう	オリジナルキャラクターを作ってみよう
	・3Dモデルを作るためのPC操作を学ぶ	・オリジナルキャラクターを3Dで作る



Blender体験イベント

体験会の概要		
日時	2024/1/20(土)	
時間	1回目12:00～13:00 / 2回目15:15～16:15	
場所	ウイングベイ小樽5番街1階 きっずてらすDive前	
参加者	1回目4名、2回目13名（小学校2年生～大人）	
講師	monmecci モコモコARスタジオ ARクリエイター 菊池桃子、渡邊花絵	
プログラム	・3Dで雪だるまを作ろう！	



デジタル系ものづくりに係る実証参加者の評価

- アンケート調査対象
- ①子ども向けBlender講座～クリエイターのたまご育成コース（回答数：参加者3件、保護者2件）
 - ②大人向けBlender講座～指導者育成コース（回答数：6件）
 - ③Blender体験イベント（回答数：7件）

《主な結果》

- ✓ いずれの講座についても、講座の内容、時間、全体満足度は、ほぼ全員から高評価
- ✓ 講習時間や講習期間についてはもっと長くても良かったなど、意欲がうかがえる
- ✓ 今後、同様の企画があった場合、全員がぜひ参加したいと回答
- ✓ 学校の部活動にはないような活動がウイングベイ小樽にできたら「ぜひ参加したい」と全員が回答（①、③）
- ✓ 大人向けのBlender講座受講者においては、今後、デジタルアート制作（5件）、AR/VR制作（4件）、映像制作（3件）に参加してみたいとの意見も。
- ✓ 地域の子ども達にBlender等の使い方を教えたり、一緒に作品制作する企画があった場合、指導者側として協力できる（4件）と回答

- 子ども～大人にまで受け入れられるコンテンツかつ継続的な利用につながる可能性あり
- AR/VR、映像制作など、より幅広いデジタル系ものづくり分野に発展する可能性あり
- より多くの方にデジタルツールに触れる機会を提供できる可能性あり

今後の方向性

- 『モルック』『デジタル系ものづくり』
 - ⇒指導者育成
 - ⇒地域住民主体で持続できる仕組みの検討
- モルック、デジタル系ものづくり以外のコンテンツの可能性を探る
 - ⇒子ども～大人まで誰でも参加できる学校の部活動にないような活動（ヨガ部、地域のお仕事体験部、学校でできなくなった部活動など）
 - ⇒地域住民主体で持続できる仕組みの検討

ウイングベイ小樽が「地域の部活動の拠点」に!?

ご清聴ありがとうございました

Let'sモルック!

